

*校長室に呼び出し（初老美形リーマン）

クラスの連中にめちゃくちゃに犯されて、俺がフラフラになっていると、校長室に呼び出された。

俺が慌てていくと、そこには朝の電車でよく会う初老のサラリーマンがいた。違う。この人こそが校長先生だったのだ。

「えっ、嘘っ…！」

「虚木君、今朝ぶりですね。朝はあのサラリーマンに良い所を取られてしまいましたから……あれから私はずっとあなたといたくて堪らなかつたんです。こちらへ来なさい」

枯れオジ改め、校長先生は俺にそう言うと手招きした。俺が校長室の机の前まで行くと、先生は首を横へ振った。

「こちらへ回ってきて下さい」

「は、はい」

「そんなに緊張しないで下さい」

机をまわりこんで、先生の椅子の傍まで行って気づいた。校長先生は椅子に座っているが、ズボンをずらし、パンツからむき出しのチンポを出して座っていた。チンポは既に勃起していた。

「っ、校長先生…!？」

「ほら、もっと近くに来て見てください」

校長先生は俺を見ると、チンポを見せつけてきた。俺が後ずさりすると、それを見越したように、彼は椅子から立ち上がると俺の両腕を取った。その

まま近くの壁に押し付けられて身動きが取れなくな
った。

「さて、良い事をしましょうか♡ここには邪魔も入り
ません♡さあ、服を脱いで♡」

「あっ♡そんな……俺、知らなくて……♡」

「私はあなたのことを知っていましたよ。あなたが
入学した時からずっと……♡通勤で同じ電車だったの
は、とても幸運でした♡」

「あっ♡」

校長先生が片手で俺の両手を抑えつけながら、も
う片方の手で俺の乳首をいじり始めた。服の上から
乳首をまさぐって、胸全体を撫でた後、我慢できな
いというように服の中に手を入れてきた。

(これだけ犯されても、俺の尻は全然痛くない。さすが BL ゲームの世界だな。全然まだまだいけそう♡)

「考え事とは余裕ですね？」

「あっ♡」

くちゅっ♡くちゅくちゅっ♡

お尻の穴に校長先生が指を突っ込んでくる。指先で突かれたただけなのに、俺はドキドキしていた。

(なんでだろう。色んな人に触られてきたのに、校長先生から香る大人のフレグランスの匂いが、凄くドキドキする♡俺、この人の匂い好き…♡指、優しいなあ……校長先生の指、綺麗だし、なんか触れてる

「はっ♡うっ♡せんせえ♡」

校長先生のチンポがブルブル震えている。先生の手は速くて、思ったより力がある。俺はすぐにイってしまいそうだった。先生の節くれだった長い指が、俺のチンポを刺激する。先生のチンポはブルンブルン震えて、俺のチンポを優しくビンタする。

(なにこれえ♡チンココすり合わせるのやばいい♡)

校長先生がチンポを二つ擦りながら、赤い顔で荒い息を吐いている。綺麗で神経質そうな眉が歪んで、快感を感じている顔はエッチだった。俺は気持ちよさでヨダレが出そうだった。

「あっ♡やっ♡っあ♡」

「くっ…♡」

シュッシュッ♡くちゆくちゅっ♡シュッシュッ♡ち
ゆくちゆくちゅくっ♡

校長先生のチンポからも先走りが出てる。ビキビキと先生のチンポから血管が浮かび上がり、俺のチンポと擦れて気持ちいい。校長先生が苦しそうに息を吐きながら、俺の口にキスをした。噛みつくようなキスと共に、俺は押し倒される。ズルズルと床に落ちそうになると、校長先生が俺をソファまで移動させた。

ちゅっ♡ちゆくちゅっ♡ちゅっ♡

「んっふっ♡」

「っ…♡」